

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	表象文化論		
英文授業科目名	Theory and analysis of Image cultures		
開講年度	2004年度	開講年次	3, 4年次
開講学期	6, 8(5, 7)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	斉藤 毅(学内連絡教官 三浦 清美)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
ZVT03146@nifty.ne.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>芸術作品における「物語」と「構成」--- 映画作品を題材として</p> <p>これが授業の主題である。</p> <p>芸術作品における「物語」(出来事を語ること)が、その作品の「構成」(作品の組み立て)といかに密接に結びついているのかを、この授業では、具体的な作品の分析を通じて、考察してゆきたい。</p> <p>分析の対象として取り上げるのは、ロシアの映画監督A・タルコスキイの映画『鏡』(1975)である。この映画は、一般にはきわめて難解な作品として知られており、そこでどのような出来事が起こっているのかさえ、一見理解しにくい。しかし、「物語」と「構成」の関係という観点から詳細に見てゆくなら、この映画は誰にでも理解しうる、ストレートな内容を持つ作品であることが、実感できると思う。この実感に到ることが、授業の達成目標である。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【教科書等】

教科書は使用せず、プリントを配布する。  
参考書等は授業で紹介してゆく。

### 【授業内容とその進め方】

#### 0. ガイダンス (第1回)

#### 1. 概論 (第2-5回)

芸術作品における「構成」の概念を、文学、音楽、美術、映画などのジャンルにそって考察し、物語芸術 (文学、絵画、映画など) における「構成」と「物語」の相互関係について概観する。

#### 2. 作品分析 (第6-15回)

- ・タルコフスキの『鏡』を一度鑑賞したうえで、この作品における「物語」と「構成」の関係を分析してゆく。
- ・分析の際に着目するのは、作品の時間的構成、空間的構成、人物間の象徴的關係、視覚的イメージ、引用 (文学、音楽、絵画、ドキュメンタリーフィルム) の機能などである。
- ・最後にもう一度、作品を鑑賞する。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

#### (a) 評価方法

- 1) 出席
  - 2) 授業時に書いてもらう意見・感想
  - 3) 学期末試験 (レポートに代える場合あり)
- このうち、1と2の平常点にも大きなウェイトを置く。

#### (b) 評価基準

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする：

- 1) 毎回の授業に出席し、意欲的に取り組んでいる
- 2) 授業で取りあげた作品、および授業で扱った問題について理解している
- 3) 授業で取りあげた作品、および授業で扱った問題について自力で考察を行ない、それを言葉で表現できる

### 【オフィスアワー：授業相談】

質問等は授業終了後に受けつけるので、遠慮なく来てください。

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

<b>【学生へのメッセージ】</b>
熱意ある人の受講を歓迎します。かならず初回のガイダンスに出席し、授業の概要を聞いたうえで、受講するかどうかを決めてください。

<b>【その他】</b>